



ひろがれ
まわれ
一つ心に

MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第39回例会(5月13日)
平成28年5月20日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
例会日 毎週金曜日12時30分～

会長 岩野 法光
幹事 吉江 信博
会報 福田 荘介
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Be a gift to the world. '世界へのプレゼントになろう'…………… K. R. ラビドラン



新入会員卓話

『「地獄家圓磨」って誰？ 落語ってどんなもの？』

(株)荒川商店 代表取締役社長
荒川 鉄平君

前半は地獄家圓磨の正体について、後半で落語についてと、途中で飽きが来ないように小噺を挟みながらお話しをしたいと思います。また話の中で不適切な表現や失礼な表現が出てくるかも知れませんが、落語の話題ということに免じてお許しいただき、しばらくの間お付き合いください。

最初に小噺を一つ「定吉、お隣から金槌を借りて来い！」

小噺の解説 落語は皆さんに想像をさせる芸です。この時代の背景は江戸時代お店のご主人が廊下に釘が出ていて危なくて困っているの、10代前半くらいの丁稚の定吉にお隣に金槌を借りにお使いにやる、という設定です。これは小噺ですが本題の20分以上の落語に入る前の導入部分でいわゆる「マクラ」として使います。**地獄家圓磨の正体は？ (自己紹介)**

私は上がり症で引っ込み思案のため、人前で真面目な話をするのが特に苦手でした。(今でも)

私の父親もそうで会合で挨拶を頼まれると、それが嫌なために途中で帰ってしまうような人でした。

そんなわけで自分自身の性格を変えようと思って青山学院大学で入った部活が「落語研究会」、通称「落研」でした。「落語研究会」だから「らっけん」と言いたくなりますが、落語や笑い話など物語の最後の部分を「オチ」というので「オチケン」と呼びます。

入部してみると私のように上がり症や引っ込み思案の人が半分、半分はまさしくオチケンらしい「口から先に生まれてきたような」人でした。そういうわけで私自身は修練のために入ったので、特に「落語」が好きで入ったわけではありませんでした。

高校時代がボウズ頭だったために、高校卒業と同時に髪を伸ばし、大学の入学式直前におふくろが行っていた美容院でパーマをかけて、その髪型のまま「落研」に入部しました。

我々「落研」にも、入部した時の第一印象で先輩が付けてくれる芸名がありました。

私と同期の芸名は、東京生まれが「てやん亭べら坊」、色の浅黒く引き締まった奴が「あらび家騎士」、顎がしゃくれて顔の長い奴が「嵐乃三日月丸」、ちょっと威勢のいい奴が「半家蝶歌」、そしてパーマで爆発頭の私が「地獄家圓磨」となりました。

卒業して40年になりますが落研の同窓会では、未だにお互いの名前は本名で呼ばずに「べら」「ないと」「みか」「ちょうか」そして「えんま」となります。我々も上級生になると同様に、先輩にも同じように芸名を付けるんですが、女子には「すばげ亭なほり」とか「ふじ家ぺこ」、大柄な子には「おお亭ころん」という可愛い名前をつけていました。

当時できたばかりの渋谷パルコに落研の連中で行ったときは、一旦自由に館内を散策させてから、受付の女性の方に館内放送を頼んで、「お

呼び出しをいたします。すばげ亭なぼり様～すばげ亭なぼり様、地獄家圓磨様がお待ちですので一階受付カウンターまでお越しください」と呼び出してもらうと、エスカレーターから真っ赤な顔をしてその子がやってくる、そんな遊びをあちこちでよくしていました。

入部すると最初は発声練習です。一席20分以上の落語をやるので、のどからではなく腹から声を出すための練習です。正座やなまりの矯正、小噺の練習など。やっと小噺をいくつか覚えた頃のこと、当時下北沢に住んでいて先輩も多くいたので帰りが一緒になります。満員の井の頭線で先輩から突然「我々もよくやっていたから、エンマ、お前もここで小噺をやりなさい」と言われます。仕方なく電車の床に正座すると満員で込み合っているのに周りに1メートルくらいの空間ができます。当然「なんだ、こいつ？」みたいな白い眼の前で「芋やの娘年取ったね、あ～老けたよ」などの小噺をやりますが、まったくうけません。それどころか命令した先輩は助けを求めて探しても見当たりません。いまだにあの出来事は忘れていませんね。

ま、そうやって少しずつ顔の皮が厚くなり人前で何とか話ができるようになってきます。

私の大学の落研には当時の「楽太郎」、今の「六代目三遊亭圓楽」が私と入れ替えて卒業しOBとなっていました。まだ売れる前だったのでよく落研の部室に遊びに来ていました。

当時からは亡くなった先代の圓楽が、日本テレビ系列でお馴染みの「笑点」に出演し大喜利をやっていて、放映の2週間くらい前に弟子の楽太郎にネタを渡し「答えを考えて来い」と言われ、よく部室にそのネタを持ってきていました。我々も一緒になって答えを考えて、その中の良いと思うのを師匠の圓楽に持って行ってたようです。当時テレビを見ていると、たまに我々の考えた答えを先代の圓楽がやっていたこともありました（梶崎さんゴメンナサイ）。

現在は同じ大学の先輩にあたる某銀行の会長がスポンサーとなってくれたおかげで、定期的に盛岡で「圓楽」の落語会があるので、そのまま40年以上にわたって交流が続いております。真面目なこともやってますよ。

大学2年の夏休みに落研の部員4人で日本橋から京都の三条大橋まで、東海道五十三次をま

ねて歩きながら途中の老人ホームで落語の慰問をするという、20日間の珍道中をやったこともあり。京都の三条大橋に到着予定の5日位前に、各新聞社の京都支局に「東京から歩きながら途中の老人ホームで落語の慰問をしている感心な大学生を見かけました。某月某日何時頃には三条大橋に到着するようなので、ぜひ取材をしてやってください。国道でみかけたいち主婦より」というハガキを、一緒にいた先輩がなるべく女性が書いたように見える字で出していました。当日マスコミの取材を期待して3時間は三条大橋にいましたが、それらしい人は誰も現れませんでした。

あ、芸名の話でもう一つ。

私より学年が一つ上の静岡県出身の先輩で、当時流行っていた「こっくりさん」という占いをもじって「夢の家こっくり」という芸名を付けられた方がいました。その方の一人娘が今年の3月まで盛岡に住んでいて、その縁でご主人も含めて家族ぐるみのお付き合いをさせてもらい、お互いの子供同士の結婚式に夫婦同伴で招待もしたりしていました。娘さんが盛岡に来たばかりで、まだ私の家内はその先輩と会ったことがない時に、彼女が私の自宅に電話をかけてきたんですが、あいにく出かけていて留守でした。帰ってきて家内が留守電を聞いたなら「あ、えんま、私こっくりだけど、また電話するね!」と入っていて、私に誰この人?とびっくりされたことがありました。ちなみにその方のご主人は作家の浅田次郎さんです。次は落語についてのお話、その前に。

ここで小噺「あるデパートの絵の展示会。度派手な化粧の有閑マダムが招待。どっちがモネで、どっちがマネ?」

米山梅吉

19歳で東京英和学校（青山学院の前身）に転入し、米人講師のもとで英語を学ぶ。翌年に米山家に養子となり、渡米。8年間の在米1937年に財団法人緑岡小学校（現、青山学院初等部）創立し初代校長に就任する。日本初のロータリークラブである「東京ロータリークラブ」を設立し、初代会長に就任。

ここで小噺。

「米山梅吉氏の時代から青山学院は英語の青山と言われていた。先日久しぶりに母校の青山

学院に行ってみたら、まるでファッション雑誌から抜け出たような、素敵な服を着ている人がたくさんいてびっくり。昔は英語の青山と言われていたが、今では何と言われているか？今では「洋服の青山」と言われている！」

落語について(落語、落語家、所属団体、寄席、歌舞伎との違い)

皆さんは違うと思いますが、普通「落語って知ってる？」と聞くと何故か半分くらいの方が「あ～笑点でしょう！」と答えます。今回歌丸さんが笑点の司会を降板するというのが、一般のニュースとしても大々的に取り上げられておりますが、良くも悪くも50年も続くこのお化け番組は落語の世界にかなりの貢献をしてきました。

落語は歌舞伎と同じで古典芸能なので現代に合わせて多少のアレンジはしてはありますが、新作以外は同じネタの繰り返しです。例えば知っているも先にオチを言うことは、決してなさらないようにお願いします。

落語は、約400年前の江戸時代の日本で成立し、現在まで伝承されている伝統的な話芸の一種であります。最後に「落ち(サゲ)」がつくことをひとつの特徴としてきた経緯があり、「落としばなし」略して「はなし」ともいい、「はなし」は「話」または「噺」とも表記します。

落語家と所属団体

東京

- ・一般社団法人落語協会(落協) 280人
- ・公益社団法人落語芸術協会(芸協) 152人
- ・五代目圓楽一門会 54人
- ・落語立川流 44人

上方

- ・公益社団法人上方落語協会 250人

その他フリー 10人

合計 790人

東京においては、前座見習いに始まって、「前座」(ぜんざ)、「二つ目」(ふたつめ)、「真打」(しんうち)の身分制があるが、上方の落語家にはありません。

寄席

上野鈴本演芸場(無休)・新宿末廣亭(無休)
浅草演芸ホール(無休)・池袋演芸場(無休)

以上4席は、通常落語定席として狭義の「寄席」と呼ばれる。

お江戸上野広小路亭(毎月1-15日)

お江戸両国亭(毎月1-15日)

国立演芸場(毎月1-20日)

天満天神繁昌亭(無休)

名古屋大須演芸場(基本無休)

横浜にぎわい座(毎月1-16日)

文化勲章…歌舞伎役者8人、落語家1人[桂米朝]

文化功労者…歌舞伎役者19人、落語家0人

人間国宝…歌舞伎役者23人、落語家3人[柳家小さん(五代目)、桂米朝(三代目)、十代目柳家小三治(存命)]

〔昭和11年2.26事件〕

(この2.26事件では、落語家初の人間国宝になった柳家小さんが二等兵として出動し、同様に知らないうちに巻き込まれて意気消沈している兵士を鼓舞する意味で、上官から落語をやれと言われてやったが、まったく受けなかったという逸話が残っています。)

このように同じ大衆芸能の出ながらこれだけの差がついたのは何故か？(楽屋が歌舞伎は脂粉の香り、落語家は加齢臭？体臭芸能なので)

落語家変わり種

歌舞伎と違い血筋より実力の世界が通用する業界で、今や関東関西のほとんどの大学出身者がいるのが落語の世界です。その中でも特に変わり種としては、

春風亭昇太の弟子の昇吉は東大経済学部卒(これで東京6大学全て揃ったことになる)

上方落語には桂福丸が私立灘中学校・高等学校、京都大学法学部卒

立川志の春はイェール大学卒業後、三井物産に入社したが、2001年11月に立川志の輔の落語を聞いて衝撃を受け、翌2002年10月に志の輔門下に入った。

立川らく朝は、日本の落語家で医学博士。落語立川流所属。笑いと健康学会理事、日本ペンクラブ会員。

「先生ちょっと見ていただきたいんで。」

「なんだい八つつあん、熱でもあるのか？」

「いえね、あっしじゃねえんで。実はあっしんちの庭の竹に花が咲きましてね。竹が花を持つってえと枯れる？なんてことを伺ったものでちょっと見ていただこうと思ひまして！」

「おいおい、八つつあん、私は医者だよ。そんなことなら植木屋にでも行って、聞いたらいい

いだらう」

「へい、でもこちら藪医者ってことうかがったもんで」

最後に

何年か前から盛岡の落語好きのメンバーの集まりに参加し、自分たちの目になかった噺家と呼んで落語会を開催しチケットを販売してみて、盛岡に落語を啓蒙する活動に目覚めました。私自身が落研OBということもありいくつかの団体を掛け持ちしていたので、それらの開催する演者や日程を調整するという意味で、緩やかな連合体としての盛岡落語研究会という組織を立ち上げ、その会長となりました。

2014年の2月の岩手大学そして今年の1月に盛岡大学に落語研究会を作りました。理想は盛岡地域にある岩手県立大学と以前に落研のあった岩手医大に落語研究会を作り、岩大、盛

大、県大、医大の4大学落研発表会を開催することです。

最後をお願いします。

年に一度の盛岡落語研究会の落語会は今回が2回目となりますが、10月10日(祝日)おでってホールにて13時開演で「古今亭菊之丞、春風亭ピッカリ」の二人会を、チケット2,500円で販売しますので、今のうちから日程の調整をお願いします。

ロータリークラブの会員の方にはお医者さんがたくさんいらっしゃいますが、笑いは健康に良いとされているようです。何故か男性の方は落語会でもあまり笑わない方がいらっしゃいますが、是非これからは盛岡落語研究会主催の落語会に来ていただき、大きな声で笑ってストレスを発散してください。

ご清聴ありがとうございました。

例 会 報 告

第39回例会
平成28年5月13日(金)

- 12時30分 開会点鐘
- ・司会 岩野法光会長
- ・ソング 我らの生業
- ・四つのテスト斉唱
- ・ビジター 南部利文君(会友)
- ・皆出席バッチ 岩野法光君(17年)。
- ・会長報告 岩野法光会長
- ・入会祝 長澤 茂・掛上智章君。
- ・誕生祝 田中堯史・高柳一郎・平賀和幸君。
- ・結婚祝 田中堯史・高柳一郎・平賀和幸・三田光男・大平騰一・平野佳則君。
- ・幹事報告 吉江信博幹事
- 終了後 理事会開催

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡北R.C.=5月18日(水)は、新緑を愛でる会開催のため18:00より、場所未定。
- 盛岡東R.C.=5月16日(月)は、家族親睦会のため15日(日)イチゴ狩り。5月23日(月)は、通常夜例会が18:30~「ラドルチェヴィータ」会場変更。

【ニコニコBOX】

- ◆近藤 駿君…長野先生、すばらしい発見おめでとうございます。さすがに遊びで英国に行っているのではないですね。今晚の講演をお聞きしたいのですが、医師会の理事会があり欠席させていただきます。
- ◆大平騰一君…先日、櫻山神社でのお花見会の席には多少迷惑な昔話の語りを聞いて頂き、ありがとう

ございました。何とか語り終える事が出来てホッとしています。これに気を良くして今後活動の機会を増やして行きたいと思っています。

- ◆熊谷隆司君…荒川鉄平会員の落語を聞いて楽しい例会でした。好評につき、秋も落語卓話をしては如何でしょうか?期待しています。
- ◆米内 正君…荒川鉄平さん、軽妙な語り口で、楽しく拝聴しました。さすが青学の落研で鍛えただけはありますね。セミプロですね。因みに荒川さんと私の家内は青学の同窓です。荒川さんは青学同窓会の会長として岩手県支部をまとめられたのしい同窓会を運営されています。今日は楽しい卓話を頂戴しましたのでニコニコします。

出席報告

会員数/71名

出席数/44名

出席率/64.71%

前々回/休会

プログラムの
お知らせ

・5月20日(金) ゲスト卓話 島山俊樹様 (NPO 法人 ボランの広場 副理事長)

「ボランの広場活動報告」

27日(金) パスト会長卓話 長野隆行会員

「会長としての一年」

●本号編集担当/佐藤 善通

●次号編集担当/熊谷 隆司